

主宰論説43

2024年を振り返って(その1)

今年も、喜怒哀楽いろいろなことがありました。怒哀の方が、喜楽より多かったのかもしれませんが。また、恐れや不安の他に、笑いなどもありました。

先ず、悲しみと怒りと不安です。

悲しみです

年の始めの元日早々に、能登半島一帯で、震度7の大地震と津波による被災地壊滅状況の映像付きの報道があり、衝撃が、走りました。また、翌日、羽田空港の滑走路内で、被災地救援物資輸送に向かおうとしていた、海上保安庁の飛行機と、札幌発羽田到着のJAL飛行機の、痛ましい衝突事故のニュースが、映像として放映され、深い悲しに襲われました。地震による建造物倒壊、社会的インフラの崩壊による広域停電、断水、土砂災害により、復旧が、進まない中、こんどは、9月には、その地域では史上最悪と思われる豪雨が、被災地を遅い、年末には、大寒波と雪害が、追い打ちをかけているようです。天変地異は、場所と時を選ばずと言いますが、あまりの災害の重なり、言葉ありません。被災された皆様への心からのお見舞いを申し上げます。また、災害関連死で亡くなられた方々に、心からの哀悼の意を表明するとともに、御冥福をお祈りしたいと思います。また、改めて、的確な防災・減災対策を考えるとともに、一日も早い復興・再生を願いたいと思います。また、天変地異の中で、地震に特化しても、いろいろな場所での被害が続出しました。4月3日、台湾近傍で、震度6の大地震が発生し、大きな被害が報告されました。また、南海トラフ地震との関連の恐れもあった、豊後水道沖合で、震度6の愛媛・高知大地震が発生し、重大な被害が報告されました。地震、雷、火事、竜巻、台風、水害などの天変地異も、従来と比べて、頻発化し、激甚化の傾向が目立つのは、地球のきしみが影響しているのかと、気になるところです。他方、大地震に伴う広域的な津波の脅威も認識され、20年前のスマトラ沖地震に伴うインド洋の世界各国における大津波被害の犠牲者に対する追悼式が開催されたのも、備えの重要性が、認識されたせいだと思われました。

期待と不安です

インターネット社会の進展とともに、いろいろな利用の利点と問題点、社会生活等に及ぼす深刻な影響について、考えさせられることが多かったようです。インターネット技術（ITX）や人工知能（AI）やデジタル化（DX）などの普及に伴い、いろいろな有用な情報は、早く得られ、インフラなどの総合的管理などがし易くなった反面、偽情報やフェイクニュースで惑わされ、サイバー攻撃、偽サイトへの不正誘導や詐欺などが、横行しました。スマートフォン、携帯電話、場合によっては、パソコンでも、通信妨害・障害が、多発するようになりました。金銭詐欺に代表されるいろいろな金銭トラブル、傷害・殺戮事件が、続出しました。海外からのインターネット経由と誘導による、若者の闇バイトへの関与と広域の強盗および傷害・殺人事件への参画の悲しい事件も、多発しました。また、人工知能（AI）に関連した話題が、多くなり、社会的な大変革の時代を思わせました。特に、生成AI、チャットAIなど、人工知能の長足の進歩とともに、機械学習等による、実験的に得られ難い物性データや、微視的内部構造の推定等の有用性の反面、著作権・知的財産権の侵害、偽情報の拡散、創造性への悪影響等のマイナス面、データセンターのフル稼働に伴う電力消費量の世界的な際限ない拡大の懸念が、指摘され、改めて、人工知能（AI）のありかた、対応の仕方が、問われるようになりました。人工知能（AI）の“光と影”への的確な対策を考えるべきと考えられます。

悲しみと怒りと不安です

昨年に続き、外では、相変わらず、民族的紛争、宗教的争い、内戦・テロ、強引な対外威圧と世界の覇権をめぐる争い等は、絶えることがなかったように思われます。シリア内戦の方は、収束し、新たな再建・復興を目指して動き出したbという朗報もありますが、アフガニスタン、ミャンマー内戦は、まだまだ続き、収束の兆しが、見えません。ウクライナ国民に大惨禍をもたらすとともに、地球的な規模での資源・エネルギー問題を悪化させ、開発途上国における貧困・飢餓、伝染病の蔓延・拡大など、いろいろな意味で、世界各国に、夢と希望を失わせかねない大きな災禍の源となったロシアのウクライナ侵攻と戦争が、未だ収束の兆しが見えません。持続可能な開発目標（SDGs）の未来展望に、著しい悪影響をもたらしています。また、昨年以来、イスラエルとパレスチナの武闘集団ハマスおよびレバノンの武闘集団ヒズボラとの戦争が、続いており、解決には、まだまだ大変ですが、時間がかかると予想されます。北朝鮮、中国、ロシアの近隣専制国家による軍事的脅威が増大し、いまだに収まるどころがありません。国家間や国際的緊張の解決に向けて動くはずの国連（UN）は、機能不全に陥って、なかなか争いの解決に向かえないという不安と危惧もあります。世界各国の民主主義国家で、与党の少数派転落や、政権交代の動きは、どのように影響するのか、気になるところです。また、内では、相変わらず、胸の痛むいろいろな傷害、刺殺、殺戮事件が多発しました。心ならずも事件に巻き込まれた方々への御見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々への御冥福をお祈りしたいと思います。また、“政治と金”と言われる、相変わらずの政治的な灰色の霧および不透明問題、人を救うはずの宗教法人のとんでもない裏の顔の露呈問題、インターネット空間での通信妨害・障害、偽メールによる不正サイト誘導、サイバー攻撃による情報漏洩および制御機能停止問題、蔓延する振り込め詐欺問題など、悲しく、暗い話も、続出しました。全国各地で相次いだ広域闇バイトを巡る指示役と実行役、中継ぎ役の関係が明らかとなりましたが、実行役による強盗、殺人事件が、関東を中心として、広範囲で続出しました。くれぐれも、若者の人生そのものを奪いかねない闇バイト問題の解決に向かう措置がおこなわれることを願いたいと思います。来年開催の決まっている“夢のイベント”であるはずの

大阪万博は、いろいろな準備不足、資材高騰による開催費用のうなぎ登りの高騰問題で、無事開催されるのか、見通しの不透明問題は、未だに残っています。

また、今年も、昭和・平成・令和時代を支えた名人・偉人・面白人たち、これまで親しく付き合ってもらった恩師、昔の上司、同僚、後輩、同級生や、先人の多くが、長い二度と帰らぬ永遠の旅路に赴きました。世界的にも有名な偉人に近い人等の訃報も続出し、悲しみに、襲われることもありました。気候変動などの自然災害に対する有効な対策が、カーボン・ニュートラル、カーボン・リサイクルなど、ようやく出そろいましたが、目安としていた数値目標は、既に超えていて、既に手遅れと考える人も少なくない。筋書き通りに実効性があるのか、いまだ見通しが不透明な問題もあります。生態系への深刻な影響をもたらすとされるマイクロプラスチックが、海洋・陸地・大気中いずれでも検知されるようになったという報告もあり、懸念されます。固体・液体・気体の廃棄物問題、生物多様性の激減、開発途上国での貧困・病気の蔓延など、地球環境問題が、地球における生物全体の存続をも危うくする危険性も指摘されるようになり、改めて、持続可能な開発目標（SDGs）の重要性が認識されました。可能な限り、的確な防災・減災対策とともに、実効性のある対応策を考える英知が必要であると思われました。また、改めて、頂いた命を大切に、天命を全うすることの重要性も、考えさせられました。

不安と恐れです

今年も、世界各地で、地震、火山の噴火、火事、洪水等の自然災害が続出し、大きな被害に見舞われました。北米、欧州、アジアなどで、熱波や豪雨の猛威にさらされました。命に危険が及ぶ高温が続き、山火事や記録的な水害も発生しました。世界気象機関（WMO）のターラス事務局長は、昨年、「地球温暖化の影響で異常気象の頻度は増しており、残念ながら『新たな日常』になりつつある」と警鐘を鳴らしましたが、今年も、続いているようです。日本でも、風・水害、土砂災害、豪雨と土石流、雪害と凍結と停電など、想定外の天変地異の自然災害、人災および複合災害が、多発しました。自然の猛威を知らしめるには、十分でした。今年も続いた長い日本の全国的な酷暑は、秋の十分な訪れなく冬に向かい、四季を喪失させた感じがありました。12月初頭まで、暑い日が続きました。小規模の失火や放火によると思われる胸の痛くなる悲惨な火災も、続出しました。地震、雷、火事、親父と言われた恐ろしいものへの備えの必要性が、とみに認識されたように思われました。

ついで、喜びです。

4年ぶりに開催されたパリでのオリンピック・パラリンピックが、いろいろな艱難辛苦を乗り越えて、成功裡に終わりました。世界情勢は、戦乱・内乱等で揺れ動き、ともすれば元気がなくなりがちの中で、“平和の祭典”という、オリンピック憲章の原点に戻り、世界各国から集まった、選手たちの躍動する姿や、開催団体等の夢のある企画とイベントで、世界各国のいろいろな人たちの感動と夢と希望と明日の活力の源になりました。また、やり投げ、体操、レスリング、柔道など、日本選手の大活躍もあり、金メダルラッシュに沸きました。今年の流行語のひとつが“金”であったプラス面からの貢献の源になりました。

日本におけるスポーツ、競技ごとに目を転じると、まず、26年ぶりに、横浜ベイスターズ（DeNA）が、日本プロ野球で日本一になりました。セントラル・リーグの3位ながら、クライマックス・シリーズを制し、パシフィック・リーグのクライマックス・シリーズの勝者を打ち破り、日本一になった、下剋上を思わせる奇跡に近いものでした。また、アメリカのプロ野球で、日本出身の若手の大谷翔平選手が、今年も大活躍をし、ドジャースをワールド優勝に導くとともに、MLB史上始めてと言われる、ホームラン50本・盗塁50本を達成して、アメリカのプロ野球史を書き換え、2年連続のホームラン王にもなり、3度目の最高殊勲選手にも輝きました。若者の新しい挑戦と夢と希望の源になったことも、記憶に新しいところです。野球界は、いろいろな快挙も多く、華々しい年でした。スポーツも、いろいろな意味で、人々に感動をもたらし、夢と希望につながる力もたいしたものだと、感心させられることも多かったようです。また、囲碁界、将棋界での新鋭たちの最年少記録や多冠の大活躍や、音楽界や芸術界や学界などでの、ベテランの、情熱と技能の衰えないしぶとい活躍とともに、若い人たちの新しい息吹と胎動と創造の動きも、頼もしく感じられました。いろいろな音楽、絵画、陶芸、建築・建造物など、国境、宗教、時代を超えて、人の心の琴線に響く力も、たいしたもの、改めて、感動の源になったようです。囲碁の世界では、一力遼、上野愛咲美さんが、始めて、世界戦で優勝を達成しました。将棋界では、藤井聡太さんが、今年も大活躍し、八冠維持に近い状態が続いています。特殊才能の達人に当たるのかもしれないが、たいしたものです。

楽しみと喜びです

喜びです

新型コロナウィルス禍で、開催を控えていた、地方の郷土芸能、祭り、花火大会、ライブが復活し、生命讃歌を奏でている姿は、ともすれば沈みがちになる気持ちを豊かにさせ、夢と希望の源にもなったようです。美術館、博物館、庭園散策なども、人の心の癒しと安らぎを与えるのに役だったように思われます。後継者難や資金面の面から、いろいろな催しが、難しくなっていると言う状況もあるようですが、日本の文化の継承と意味で、継続されることを、願いたいものです。

嬉しさです

夢と希望をもたらす話もかなり多かったようです。文化界、スポーツ界でのいろいろな快挙、科学界でのすばらしい発見や創造、工学および実業界での新しいイノベーション（DX、IoT、人工知能、ビッグデータ、ロボット、スーパーコンピュータの新型コロナウィルス感染対策等の社会貢献での活用、量子コンピュータの実用化の動き、民間による宇宙技術の開発の進展、科学技術と芸術の融合、無人飛行機ドローンの平和目的の利用の進展、可視化の高度化など）、皇室・皇族のほのぼのした話題など、今年も、今後に向けての明るい話題もありました。人と生物と自然との共存・共栄と宇宙船地球号の大切さ、世界遺産の保存と存続と世代的継承、地域・地方社会の再生と活性化に向けての着実な動きなど、情熱と努力と継続を感じさせる話も結構多かったと思います。

また、日本の被爆者団体協議会が、2024年のノーベル平和賞を受賞しました。

ただ、頭に留め、忘れてはいけない話もありました。

年の瀬が迫ってから、打って変わって、大寒波と雪害に見舞われました。北海道、東北、北陸、山陰地方の日本海側だけでなく、全国的に、大寒波と大雪の雪害に見舞われました。アメリカ、カナダの北米、イギリス等での大寒波と雪害も、厳しいものがありました。雪は、スキー場にとっては、営業上不可欠ですし、貴重な水資源にもなりますが、生活の支障とインフラ破壊も連なります。尊い命を守るために、防寒対策とともに、防災・減災対策は、忘れないようにしてもらいたいものです。被災された皆様のお見舞いと、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。忘れていたかも知れませんが、いろいろな建造物や文化遺産の老朽化とその対策について、考えさせられることも、多かったようです。材料・部材等の劣化は、必要な性能・機能の経時変化として、社会的インフラや建造物の損傷やその資産価値の低下や不測の事故とともに、世界遺産の存続にも影響を与え、寿命を早めることもわかってきました。また、自然災害や人災および複合災害の際の危険度を高めることにもなります。気候・風土の影響もありますが、地球環境の変化も、複合災害の増大にも連なることもあるようです。長期的な実効的な対応策とともに、短期的・中期的には、的確な防災・減災対策を考えることが重要だと考えられました。軍艦島その他の世界遺産となっているいろいろな建造物も、正しい劣化と寿命の知識に基づいて、維持・保全、修復、再生を行い、必要あれば、解体・廃棄をするという判断が必要になることもあるようです。寿命にも、いろいろあるようです。「手前みそ」のようで申し訳ありませんが、劣化現象がどのように起こるのか、メカニズムの研究例は、多いけれども、それをわかり易く“見える”ようにする（「可視化」）とともに、寿命に結び付けるという、私がこれまで興味を持って継続的にやってきた話も、重要であることが、再認識させられました。

令和6年12月30日 福島敏夫